

の競食が崇つて、今日は大に元氣が無い、食事も進まぬらしく、苦い顔をしてござらツした。

一時間程して一同は四望頂を出發、東の石門をくぐつて神懸焼を見物し、それから大急ぎの漸く只今歸着したのだとブック氏は息をもつがず語られた。

セイヌ河畔

T O 生

巴里のセイヌ河は、丁度東京の隅田川大阪の淀川のやうなもので市の中央を流るゝ大きな川である。川には一錢蒸氣が盛んに動いてゐる、また下等の風呂船などもある。橋では博覽會紀念に架せられた歴山三世橋が廣くつて立派である。上流は紳士の別荘などがあつて景色のよい處が多い。

川上に向つて右は巴里の繁華な大通りで有名なオペラも遠くはない、凱旋門も直ぐ近くである。歴山三世橋の袂には、大サロンの會場なるグランパレーがある。市で買上た美術品の陳列場たるピツチパレーもある。少し下るとルーブル博物館が岸に臨むて嚴として、控へてゐる。それより猶下ると市廳がある、この壁畫は大したものだ。ノートルダムは、下流の島のやうな處に高く中空を摩してゐる。左岸はナポレオンの墓所やエッフェル塔などあつて、丁度ルーブルの對岸あたりに美術學校がある、世界の美術家はこゝに種を撒き發育するので、實も生らずに枯れてしまふのも少なからぬことだらう。口繪にある河岸店は、美術學校の在る近處、セイヌ河の岸堤防用の石垣の上に並ん

であるさまの店で、大きな箱の中に商品がある。黒い着物の女や白い髯の男が番をしてゐる。古錢もある、小道具もある、併し重に書物で、古いカタログなどよく日に晒されて表紙を反らしてゐる。香氣な巴里人は勿論遊覽の外國人も皆足をとめる。中村不折君は、留學中は學校の往復には屹度立寄つて、掘出物がなにかと目を皿にしたものだ。

床店は夜になると箱の蓋をして錠を下し、番人はテンの家の歸つてしまふ。

床店の並むでゐる石垣の後ろは海岸になつてゐて、一間程の道がある、人があまり通らぬから川や橋の寫生にはよい處である。先年三宅克己君がこゝで寫生してゐたら、石垣の上から紙屑など投つて困るので日除傘をさした、するとイタヅラ小僧が、上から傘の石突を掴むて宙に吊したといふ話もある。

寫生地案内

三 脚 子

東京を中心として、一日で往ける位ゐる場處の寫生地を、毎號御案内いたさう

冬は自然界の活動の休む時であつて色彩の變化が少なく、又東海道方面は好晴の日が續くから、五日一週間と一つの繪の寫生をなすのに都合がよい。たゞ此季節に於て、戶外寫生に困難を感じるのは、寒氣と強風とである。

冬の日の感じは、弱いけれど落ツキがあつて、穩やかな繪が出来る。寫生地としては何處でも面白く、雪の景などは此季節に